

集中講義「島のしくみ」レポート

工学部情報生体システム工学科 猿渡右京 学籍番号：2511290265

今回集中講義として初めて与論島に行き、ある意味で観光客としての体験をしました。与論島の事を知るためにカタログや教授に頂いたガイドブックを見て与論島が島を含めて全体的にきれいな場所だということは知っていたのですが、実際に行ってみると写真で見たよりももっときれいで、休日にこの島に行けたら身体的・精神的にかなり休めそうな場所だと思いました。少し残念なことにこの時は4日間の滞在のうち2日間は台風の影響で外の景色を楽しめませんでした。他にこの島の特産品として有名な黒砂糖やそれを使った食品があり、試食してみると結構おいしくて黒糖菓子の詰め合わせを3つお土産として買って帰りました。この他にも町や海といったところで与論島には誇るべき点が何か所もあり、与論島は日本の中でも観光地として上位に入る場所です。しかし、70年代の1時期の増加以降の観光客の数は年々減少し続け、今では最高数だった頃の約3分の1まで減っています。このレポートのテーマである「どうしたらこの島に来る人を増やすことができるのか？」もこうした事態からきているのですが、この場合どうして70年代から人が来なくなるようになったのかを私の視点で考えたことを述べたいと思います。与論島は先ほども述べたようにその青と緑でできた美しい海や昔からの生活の風景を残した場所と観光向けにも利用できる場所のできた町で構成されています。初めて見た感じでは気が付かなかったのですが、街中を探索する時間で町に降りてみてよく見ると日用雑貨など売っている店が少し少ないような気がしました。町に降りてみてそうした店があることはありましたが、その間隔が割と距離が遠く離れていて観光客によっては徒歩での利用が困る場合もあると思いました。それでも観光する分としては事前に調べたりして店の分布場所を知ってさえいれば気にならないのですが、もっと深刻な問題としてはそうした店の利用可能時間帯が短いことだと思います。夜中に閉店するとはいえその時間以降に利用しようとしてもできないものですからコンビニ等の店が開いているとそうした事に対して助かると思います。観光地事態に関する問題点は以上だと思っています。他に何があるのかというと、与論島にはその観光地としてのすばらしい魅力があるのにその魅力を見に行こうとする人が少なくなっている、あるいは知らない・知ろうとしない人がいるということがあると思います。休日にこうした島に行くというのは費用もさることながらやはり交通等に掛かる時間が旅への大きな障害になります。こうした障害があるから行く手間がかかるのが苦手な人は興味をそがれて休日は地元や近い場所にて過ごすというのが考えられます。与論島に限らず他の島の観光地にも同じことが言えるのではないのでしょうか？しかしそれは島が観光地として成り立つ時から存在し続けてきた問題です。70年代と今との観光に関する決定的な問題はやはりこうした観光地に行くということに対するステータスの変化したということです。この島に行く前の自分でも分かっていたのですが、テレビ等の番組でこの島を知ってもそ

れから後に行くかどうかといえば興味がないときには当然行くことはありません。与論島を訪れる人が増えるには休日に与論島に行くことがいい思い出になるという強いイメージを人の間に植え付ける必要があると思います。その方法はあまり自信がないのですが、70年代の人たち程の影響は与えられませんが、テレビ等でより多くの島の宣伝をすること、そして日本の休日には島に行くことがベストであることを広告やメディアにもっと広く呼び掛けてもらうのが一番有効なやり方だと思います。人の休日に対する意識が今の状態から変化しない限り観光客は増えません。ですから、日本中の人たちが70年代に受けたこの島からの影響を実現するためにより強いアピールポイントを示すことが大事なのだと考えています。